

目標（3）

人と学びの輪を広げ、  
まちのチカラを育みます



▲タカハマ！まるごと宝箱  
～みんなで鬼みちを歩こう！～

**修正箇所なし**

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とがつながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「まちづくり」へと動きをつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。</li> <li>◇ 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。</li> <li>◇ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持つ市民が増えています。</li> <li>◇ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。</li> </ul>

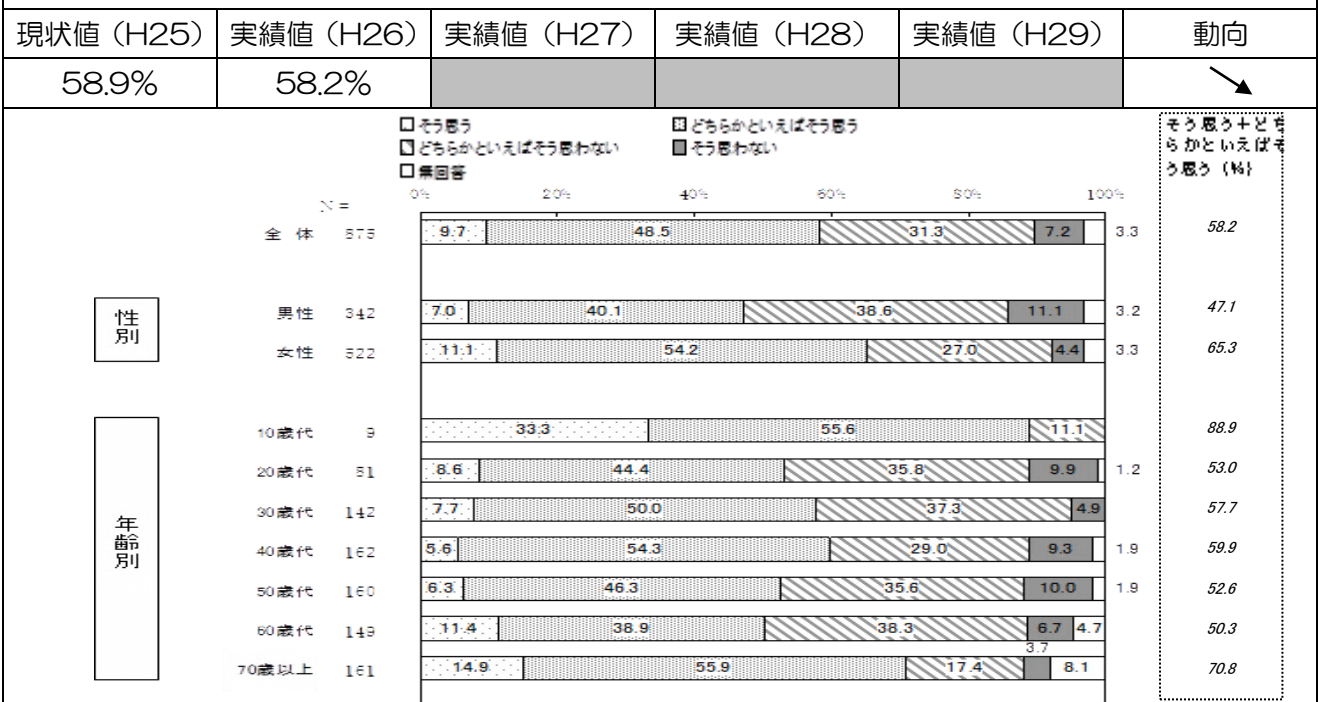
II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
(1) 地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。	①「タカハマ！まるごと宝箱」を立ち上げた。（前倒し実施） （例）みんなで鬼みちをあるこう！／高浜港駅を語ろう！！／高浜市のお正月料理／1年間の振り返りと高浜の魅力をみんなで語ろう！ 月1回開催	H26.7～
	②愛知教育大学との連携により、公開講座「地域の歴史・文化について民俗学してみよう」を開催した。	H26.10
	③図書館と共同して高浜ふるさと講座「高浜市における土管作りのはじまり」「写真で見る衣浦大橋周辺の今昔」を開催した。	H26.11 H27.2
(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。	①毎週事務局会議に参加し、たかはま夢・未来塾の課題解決など運営強化に注力した。ロボットクラブに属する2人が世界大会出場を決めた。ディベート甲子園では、全国3位に入賞した。	H26.4～ H27.3
	②中高校生を含む市民スタッフと市民映画「タカハマ物語」第2弾作戦会議を開催した。「タカハマ物語2」シナリオ・撮影・演技ワークショップの開催、出演者オーディション、製作発表会など、製作に向けた準備を進めた。（H27.3.21 クランクイン）また、市民スタッフによる「タカハマ物語2」ラジオ放送や公式ホームページ、フェイスブックなど、様々な方法により情報発信した。	H26.7～ H27.3
(3) 地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。	(1)に同じ	
(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働での事業推進を行った。	H26.4～ H27.3
	②（仮称）高浜緑地上部利用について、愛知県港務所と定期的に打合せを実施した。また、市民と検討会を立ち上げ、ワークショップを開催した。	H26.4～ H27.3

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

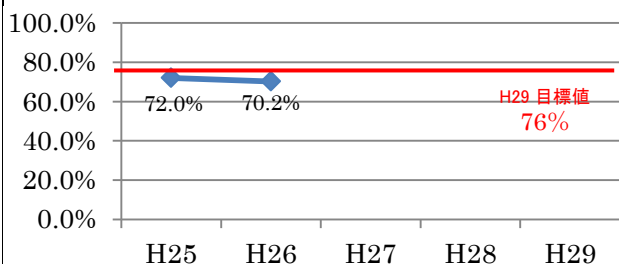
#### 1. 市民意識調査結果

【設問】 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う

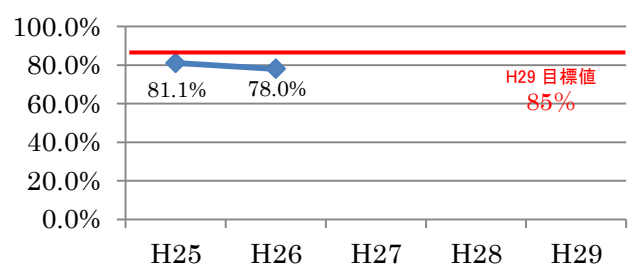


#### 2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

##### 1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



##### 2) 将来の夢を持っている子どもの割合



#### 3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 市民意識調査は、策定時と比べ 0.7%減（58.9%→58.2%）。「市民意識調査報告書」で内訳をみると、男性が策定時と比べ 10.5%減（57.6%→47.1%）、女性が 5%増（60.3%→65.3%）と男女間で意識の違いがみられ、女性は高い水準にあり、かつ増加している。これは、市内で行われている各種スポーツや文化活動などの生涯学習活動に女性が積極的に参加し、人と人とのつながりがあることの表れである。市内に学びのプログラムは多数あり、今後は男性を意識した事業展開が求められる。
- 指標 1) 「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」では、策定時と比べ 1.8%減（72.0%→70.2%）。内訳をみると、男性が策定時と比べ 5.6%減（72.8%→67.2%）、女性が 0.8%増（71.1%→71.9%）と男性の減少が全体の数値を押し下げた。まちへの愛着や誇りを高めるには様々な要素があるが、学びのプログラムに女性が参加し、さまざまなつながりの中から、まちへの愛着や誇りが高まっていると考えられる。この指標は今後まちづくりをする上で重要な指標であり、今後は「タカハマ！まるごと宝箱」の取組みを軸にさらに学びの輪を広げ、特に男性への働きかけを強めたい。
- 指標 2) 「将来の夢を持っている子どもの割合」では、策定時と比べ 3.1%減（81.1%→78.0%）。内訳をみると、男子が策定時と比べ 5.1%減（78.9%→73.8%）、女子が 0.8%減（83.4%→82.6%）と男子の減少が全体の数値を押し下げた。全体の傾向として、学年が上がるにつれて、数値が低くなっており、とくに中学生が大きく減少している。スポーツ少年団への支援や夢・未来塾の運営、市民映画「タカハマ物語Ⅱ」の撮影、地域のおやじの会の活動などで小学生へのアプローチは進んでいるが、中学生になると部活動や勉強で忙しくなり、アプローチが難しい。今後は、引き続き小学生へのアプローチを高め、その経験や体験が将来の夢につながる取組みを目指したい。

#### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案）	見直し・改善（案）
<p><b>（１）学びの輪の広がり</b></p> <p>・「タカハマ！まるごと宝箱」は、さまざまな世代の人がまちの魅力を掘り起こし、磨き上げ、学び合い・語り合うことを目指している。<u>この学びの輪を子どもも含めたさまざまな世代に広めていくことが大切である。</u></p>	<p>・まちの魅力のコンテンツは、まずは、大人が中心となって掘り起こし、その魅力を動画などで発信する部分で子どもが主体的に関わりを持つ中から、<u>あらゆる世代が「もっと知りたい」「伝えたい」「地域のために何かしたい・役立ちたい」といった思い・行動が循環しあうフレームを築いていきたい。</u>これは市民映画「タカハマ物語Ⅱ」の延長で、子ども若者の成長応援にもつながる事業として考えている。</p>	<p>拡充 ・ 強化</p>
<p><b>（２）たかはま夢・未来塾の充実</b></p> <p>・これまで、特定の講師により各種プログラムが運営されてきたが、塾全体として子どもに最適なプログラムを提供できる体制づくりが求められる。</p>	<p>・たかはま夢・未来塾内にプログラム検討組織を立ち上げ、<u>子ども目線で事業プログラムや講師のあり方を検討する。</u></p>	<p>拡充 ・ 強化</p>
	<p>・講師の複数体制を確立し、安定運営を行う。</p>	<p>拡充 ・ 強化</p>
<p><b>（３）生涯学習・スポーツ施設のあり方</b></p> <p>※目標（２）「公共施設のあり方」と関連</p> <p><b>①生涯学習・スポーツ施設のあり方</b></p> <p>・生涯学習・スポーツ施設は、集いの場、交流の場、学習の場など学びを支える市民全体の貴重な財産であるが、<u>公共施設の総量圧縮方針の中で、機能移転を進める必要がある。</u></p>	<p>・高浜小学校の建替えなどに合わせて、<u>体育センターや図書館など生涯学習施設の機能移転を進める。</u>高浜小学校の複合化、あるいは、別の場所への機能移転など、多方面からの検討を進め、<u>集いの場、交流の場、学習の場としての機能を確保する。</u></p>	<p>継続</p>
<p><b>②高浜緑地（とくにグラウンド）の早期供用開始</b></p> <p>・狭隘な市域で、野球やサッカーなど競技人口に比べてグラウンドが少なく、スポーツの振興に支障をきたしている。<u>高浜緑地のグラウンド部分の早期供用開始が求められる。</u></p>	<p>・高浜緑地は県の予算に進捗が委ねられている。高浜緑地全体の早期供用開始が望ましいが、<u>愛知県衣浦港務所との協議ではグラウンド部分の早期着工を特にお願いする。</u></p>	<p>継続</p>

#### V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

##### Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

- ・地域には、様々なノウハウを持った人材が大勢いる。例えば、公認会計士・社会保険労務士・司法書士・弁護士・看護師・歯科衛生士・学校の教員や保育士など、資格を持った人材の掘り起こしを行うことが大切である。その方たちを、分野別に一覧表にして登録・公開し、学校や各種団体が協力を依頼できるようにすると、教える人と教わりたい人がつながる仕組みができるのではないかと。また、教わった人が、学びの成果を活かして教える側に回ることができるよう、取組みを進めていくことも大切である。
- ・趣味・教養・余暇・娯楽といった個人的自己決定能力を高めるだけの生涯学習から脱し、集団的自己決定能力を高める生涯学習、すなわち生活課題に即した講座や、地域みんなでまちづくりを進めていくために必要な知識・能力を身につけた市民集団を育てていくための生涯学習が求められている。

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

- 市民意識調査結果によれば、「将来の夢を持っていない」と回答した小学生は250名程度、中学生では500名程度である。指標「将来の夢を持っている子どもの割合」を高めていくためには、小学生よりも、母数の大きい中学生に対してアプローチを強める方が効果的であると考ええる。
- 「将来の夢を持っている子どもの割合」が伸びていることはとても良いことであるが、学年が上がるにつれ割合が低下していく要因を追求していただきたい。
- 指標「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」について、男性の割合が少ないとの分析であるが、景気が上向き傾向である今、男性は忙しくなっており、男性を意識した事業展開は難しいのではないかと子どもへのアプローチを通じて親たちを巻き込むことが有効であると考ええる。

### Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 「タカハマ！まるごと宝箱」事業について、現在大人が持っている情報や物語を、いかにして将来的に子どもたちにも伝えていくかといった構想を練った上で取組みを進めていただきたい。
- まちの魅力のコンテンツの掘り起こしを、大人が中心ではなく子どもも一緒に行き、子どもの「やりたい」気持ちを応援していくことが大切である。

### その他、目標の達成に向けて

- 地域の教育力を高めていくためには、生涯学習政策がベースとなる。生涯学習、学校教育、子育て・子育ての3分野は、互いに関わり合いが深く、連携が欠かせない。縦割りにならないよう各部署が連携し、お互いに問題点を出し合いながら取り組んでいただきたい。
- 企業も、小・中学生向けに授業・講座の講師を務めるなど、生涯学習の一端を担う協力体制を整えている。企業も生涯学習のパートナーとして考えていただきたい。